

令和3年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	8	事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名： 公益財団法人静岡県舞台芸術センター 施設名： 静岡県舞台芸術センター（SPAC）
<p>助成対象活動に関する評価 （妥当性）</p> <p>当該劇場は、静岡県が平成30年3月に発表した「ふじのくに文化振興基本計画」において、3つの重点施策に位置付けられ、「静岡県舞台芸術センターの舞台芸術活動による世界的発信や鑑賞事業等活動」を推進している。</p> <p>ミッションは、「世界をリードする創造活動によって、日本文化の国際的プレゼンスを高める」ことを掲げ、ビジョンは、「日本の舞台芸術の国際的プレゼンス確立」の実現に向けて活動するとしている。</p> <p>アウトカムは、「創造」「文化交流」「教育」「地域活性化」の4つを掲げ明確である。しかし、7つの目標に対して、複数のアウトカムが紐づけられ、1つの目標の中に複数の目標を設定したものが3つ認められ、アウトカムと目標の整合性を複雑にしている。</p> <p>また、平成30年度に設定した20の指標は、令和2年度の自己点検報告書で、9つの指標に絞り込まれ、定性的な指標に集約していた。目標と指標の整合性にやや不明確な点もあり、事業計画の達成状況は判断できない。</p> <p>加えて、平成30年から令和3年度までの自己点検報告書では、目標及び成果をアウトプットとして捉えていることが判明している。</p> <p>以上のことから、事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定どおりに事業が進められていると判断できない。</p> <p>一方、創造作品の国内外での上演による高い評価、県内各地での公演やアウトリーチ活動等の実施による地域への貢献、中学高校生鑑賞事業等の鑑賞機会の提供が図られた。</p> <p>以上のことから、助成に値する文化的、社会的意義が継続して認められた。</p> <p>（有効性）</p> <p>妥当性で指摘したとおり、7つの目標に対して、複数のアウトカム及び9つの指標が設定され、事業間で目標達成を補完し合い複雑に絡み合っており、目標1から4及び7については、1つの目標の中に複数の目標が混在しているため、目標の達成度を測ることが困難であった。自己評価に関するエビデンス資料では、定性的な記述に裏付けされる資料に乏しく、明確な達成状況が測定できない。ただし、目標5と6はおおむね達成していたと認められる。</p> <p>以上のことから、目標が達成し、アウトカムの発現が可能であるか判断できない。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>また、事業費については、おおむね適切であったと認められるものの、一部の事業において、要望時の予算額と報告時の実績額との間にかい離があった。実効性のある予算積算と適切な予算管理に努めてほしい。</p> <p>（創造性）</p> <p>芸術総監督宮城聡が演出した『顕れ』と『イナバとナバホの白兔』では、十分に訓練された専属俳優の身体性並びに生演奏、芸術総監督の高度な俳優統率力・構成力、舞台美術の高度な製作技術など、劇場スタッフ・キャストの成熟度の高さが評価できる。芸術総監督の表現方法は、国内に類似なものはなく独創性、先導性が認められる。</p> <p>『妖怪の国の与太郎』では、様々な妖怪を演じ分ける動き手（ムーバー）と、2人の語り</p>		

手（スピーカー）を演じる専属俳優に独自の高度な演技手法が認められた。また、語り手は、演技と同時に秀逸な奏法で生演奏を行い、打楽器アンサンブルが作品全体を牽引していた。芸術総監督による特殊な演出手法は効果的で、独創性に優れていると認められる。また、俳優に違和感なくマスクを着用させることを意図した衣裳デザインや、上演途中で消毒タイムを取り入れる工夫など、コロナ禍に配慮したユニークな取組も奏功していた。

教育プログラムや地域活性化プログラムでは、舞台芸術人材や鑑賞者の育成、多様な地域活性化の取組など、市民の要望に寄り添った企画を提案した。講師やコーディネーターは、専属俳優やスタッフが務め、当該劇場の強みを生かした取組として先導性が認められる。また、新型コロナウイルス感染症拡大に対応するため、「でんわde名作劇場」「オンライン・リーディングカフェ」「出張ラヂオ局」をオンライン配信で実施し、実演芸術の可能性を拡大する取組として、新規性が認められる。

芸術総監督はこれまでの活動が評価され、平成31年4月、フランス政府よりフランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章した。さらに、『パール・ギュントたち』は、ノルウェー政府の創設した革新的な舞台芸術プロジェクトを表彰する「イプセン・スカラシップ」を受賞した。芸術性が高い作品創造により、当該劇場の世界的な評価が高まっていることが認められる。

令和3年度には、地域活性化プログラム「SPACの劇配！～アートがウチにやってくる～」の事業のうち、「非オンラインによる高齢者や子どもに対する演劇配達」の取組が「第1回日本アートマネージメント学会賞」を受賞した。

以上のことから、事業内容が、独創性、新規性、先導性等に優れており、事業の実施によって、当該劇場の国内外での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

財政面では、静岡県との良好な関係を築き、潤沢な補助金の獲得や民間助成金の活用、専属俳優やスタッフによる講師料や上演料の収入増加など、財源確保の多様化を図っている。

組織面では、当該劇場の芸術局職員のうち、芸術局長1名のみが常勤職員である。創作・技術部33名、制作部22名、文芸部3名、演技部45名は、3年ごとの更新による業務請負契約職員であり、安定的な雇用環境にあるとは言い難い。国内外で高い評価を受けている公立劇場として、安定した運営体制のもとで創作活動を実現することを求めたい。

以上のことから、自治体文化政策の方針が明確であり、安定的な財源基盤がおおむね確保されているものの、組織面では課題も多く、組織活動の持続的な発展については、一定程度の期待にとどまった。

（総 評）

平成19年4月に宮城が静岡県舞台芸術センターの芸術総監督に就任して以来、独自に開発した俳優訓練法により、「言/動分離」の手法と、専属俳優等による打楽器の生演奏を織り交ぜた精緻な演出は、国内外から大絶賛を浴び、我が国の国際プレゼンスの向上に貢献した。また、日本の古典戯曲から、ギリシャ悲劇を始めとした海外戯曲まで幅広い演目を手掛け、活動の幅をより一層拡大していることが認められる。

今後、引き続き、我が国の国際プレゼンスを高めると共に、県立劇場として地元根ざした活動を継続し、県民に愛される公立劇場として地域に貢献することを期待する。